

第1回 史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会 会議録

1. 開催日時 令和4年3月16日（水）午後2時00分から3時30分まで
2. 開催場所 船橋市役所11階113会議室（Web 会議システムによるオンライン形式を併用しての開催）
3. 出席者
 - (1) 委員
阿部委員、樋泉委員、米田委員、秋山委員、押田委員、朝倉委員、小川委員、今井委員、鈴木委員
 - (2) 事務局
三澤生涯学習部長、松田文化課長、栗原郷土資料館長、田久保飛ノ台史跡公園博物館長、白井文化課長補佐、高橋埋蔵文化財調査事務所長、小中文化財保護係長、小林調査班長、白崎主任主事、早坂主任主事、植木主任主事
 - (3) オブザーバー
千葉県教育庁文化財課 黒沢主任上席文化財主事
4. 欠席者 森内委員
5. 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 委員長・副委員長の選出（公開）
 - (2) 史跡取掛西貝塚の概要と計画策定について（公開）
 - (3) 今後の予定について（公開）
 - (4) その他（公開）
6. 傍聴者数
1人
7. 決定事項
 - (1) 委員長は阿部委員、副委員長は樋泉委員を選出した。
 - (2) 史跡取掛西貝塚の概要と計画策定について事務局より説明し、質疑及び意見交換を行った。
 - (3) 今後の予定について事務局より説明した。
 - (4) 取掛西貝塚に係るアンケート調査について、質疑及び意見交換を行った。
8. 議事
開会（14時00分）
 - (1) 事務局説明

本日は、森内委員が欠席となる旨、説明があった

(2) 会議の公開、傍聴者について

事務局より、本日の会議が公開であること、傍聴者が1名であることについて報告があった。

[傍聴者入場]

(3) 議題(1) 委員長・副委員長の選出

委員の互選により、委員長に阿部委員、副委員長に樋泉委員が選出された。

(4) 議題(2) 史跡取掛西貝塚の概要と計画策定について

事務局からの説明後、質疑および意見交換を行った。

(活用全体について)

阿部委員長：古い縄文時代の遺跡だけではなくて、稲作農耕社会が始まった弥生時代の人々のムラの一角もこの遺跡に残されています。こうした成果も含め、遺跡の重要性や活用計画についての総括的な活用が期待されます。

(広報ふなばしについて)

米田委員：市政モニターアンケートの結果を見ますと、市民の方がこの遺跡を知ったきっかけとしては「広報ふなばし」という媒体が、割合としてすごく多いようです。広報はどのように配布され、取掛西貝塚は何回くらい紹介されたのでしょうか。

それから、遺跡の報告書は大変専門性が高いものではあるのですが、市民の方がどこかで、図書館などで閲覧することができる状況になっているか、以上の2点について教えてください。

事務局：まず、広報でございますけれども、基本的には新聞の折り込み等で配布しております。新聞を取っていない方には、ご希望があればお配りしています。すぐに何年の何日号かまではお答えできませんが、平成29年度から3年間、現地で発掘調査をしましたが、調査中の8月頃に遺跡の説明会をしております。その時に何回か、「広報ふなばし」で特集されております。また、令和3年6月に国史跡指定の答申が出たのですけれども、それに合わせて見開き1ページ特集された号が出ておまして、遺跡の重要性を6項目にまとめて紹介しています。こちらにつきましては、後ほど事務局から委員の皆様と共有できるようにお送りさせていただきますと思います。

総括報告書の閲覧ですが、こちらについては、もちろん市内の図書館、国会図書館等にも入っており、さらに奈良文化財研究所による「全国遺跡報告総覧」、こちらでインターネット上でも閲覧できるように公開しております。船橋市のホームページからもリンクを貼っております。市民の皆様が見ることができるようにしております。

(パンフレット等の配布)

米田委員：市民が取掛西貝塚を知ったきっかけとして挙がっている中に、取掛西貝塚パンフレット・リーフレットがありますが、これはどのようなかたちで配布され、市民の方に届いて

いるものでしょうか。

事務局：パンフレット・リーフレットにつきましては、市内の公民館や図書館、市役所で無料配布しております。そのほかに船橋市のホームページからも PDF ファイルを見ることができる状態にしております。また、小学校 6 年生に毎年、全員に行き渡るように「ふなばしの遺跡マップ」を配布し、取掛西貝塚のパンフレット等も学校を通して生徒に配布しております。

米田委員：小学生にも配ったことがあるということですね。

事務局：その通りです。

米田委員：ありがとうございます。その取り組みはとても良いと思いました。

(学校での活用等)

阿部委員長：いま米田委員のご質問に対してお答えいただきましたけれども、その割にはアンケート結果を見ると、子どもたちの認知度は非常に低いように思うのですけれども、その要因は何か思いつくものはありますか。

事務局：昨年度までは学校にパンフレット・リーフレットを送って、配布をお願いするだけでした。令和 4 年度以降は、ただ配布をお願いするだけでなく、それらを教材としてどのように使うかということ、学校や、学校教育を所管する部署と、どのように活用するのが良いのかということ、を相談しながら、学校の授業で使いやすいかたちで提供したい、そのような動きにしたいと思っております。

鈴木委員：昨年はリーフレットを配布しました。6 年生には歴史の単元が入ってきているのと、学習用端末が配布された年だったので、6 年生に関しては、取掛西貝塚が自分の学校からどれくらい距離が離れた場所にあるのかということ、グーグルアースでみるということまで、担任にお願いしました。

阿部委員長：何か、アンケートの数字を大きく改善するような取り組みができればと思います。例えば畑に落ちている土器のかげら一つを説明しようとする、これは社会科の知識だけではできないことで、「粘土とは何？」とか、「粘土を焼くと、なんで土器になるの？」とか、あるいは「その土器を使って何を食べたのだろうか？」とか、そういうところの説明が必要になってきます。そうすると、それは小学校や中学校の教育の中で言いますと、社会科だけに限定されない、地学とか化学とか、さまざまな 5 教科の中の科目に連携して関係していると思います。何か取掛西貝塚の活用をめぐる、そういったものを横断的に、知識として深められるような取り組みができればよいのではないのでしょうか。

米田委員：中等教育、特に高等学校では探究的学習というものが指導要領で謳われており、総合的な学習をどうやったらいいのか、先生方は非常に苦勞しておられるという話を色々ところで聞くことがあります。特に遺跡は、理化学的な分析も一般的によく行われておりますし、もちろん歴史という側面もありますし、ヒトの進化という側面もある、非常に総合的な学習をするのに適しています。そのような、高等学校を含めた探究的学習にどのように活用するかという、そういった事例をいくつか紹介したりすると、多くの先生方が遺跡を活用してみようと考えているのではないかと思います。

押田委員：生涯学習というものが昨今さまざまところで盛んで、もちろん若い方に教育を広げるといっても大事なのですけれども、やはり最終的には皆さん地域に帰られるものと思う

ので、まちづくりとしては、子どもも含めた生涯学習のエリアとして活動していただくためにも、大人の方も参加を多少見込んでおいた方が良いのではないかと思います。立地適正化計画というものもありますし、今後かなりスマートなまちづくりが求められる中で、こういった考えも保存活用の中に含めていただけると良いのではと考えております。

朝倉委員：まず一つ、船橋市内だけでなく、近隣も含めて、いくつか遺跡といいますか、そういった文化財的なものがあると思います。そこをうまくネットワーク化していくとよいのではないのでしょうか。あとは、取掛西貝塚の最寄り駅の飯山満駅の反対側に、東葉高校がありまして、その先生にお話したところ、いま米田先生がおっしゃっていたように、活用でご興味をお持ちの先生が何人かおられましたので、モデルケースのような事業が少しできるのではないかと考えています。

秋山委員：秋田県大湯遺跡の環状列石を整備したときは、最初に地元の学校の先生方に遺跡をわかっていただく必要があるということで、学芸員の方が学校側に呼びかけをして、先生方に遺跡を全部見て理解していただいて、それからだんだん学校教育に持っていったということもございました。色々な地域によって、その辺りが違うと思いますが、やはり子どもを教育する人、先生方にまず知っていただくのが結構重要なことかなと感じております。

それともう一つ、先ほど他の委員もおっしゃったように、全体的、総合的な、色々な学問体系ということがあるので、一般の人にどう伝えるか、非常に重要な点だと思います。それはやはり、遺跡を整備していくうえでは、研究していく段階、整備していく段階、そして活用していく段階という、それぞれ全部違うプログラムが必要になります。その三つの系統の総合的なプログラミングを、事務局としては最初に考えるべきだと思います。ですから、例えば先ほどの説明の中では、土砂災害警戒区域があるという問題。これは保存していくうえでの問題、或いは活用していく問題で、非常に重要な問題ですが、研究系とはつながってきません。けれども最初から土木的な雨水排水計画をどうするかといった調査、或いは雨が地盤にどの程度浸透するかといった調査も含めてやっていかななくてはならないので、総合的に三本の軸でずっとやっていくというのが、整備や活用をするうえで非常に重要です。今までは研究系が主体になっていたと思うのですけれども、そういう点で三つ巴の計画にしていく必要があるのではないのでしょうか。

今井委員：私のいる金杉台中学校では2・3年生しかおらず中学1年の生徒がいないので、歴史で縄文を取り上げるところは、授業ではできないのですけれども、先ほどの高校での総合教育のお話がありましたが、中学校でも総合学習を実施しております。SDGsという観点からも縄文や、その後に脈々と続く畑作などの利用もありますし、そういうところでの無駄のない生活をSDGsと結び付けるというのは加曾利貝塚でもやっているようですけれども、教科的な面ではそういう取り組みもできるのではと思っています。

それから、船橋には研究団体がありまして、任意団体ですけれども、毎月第三水曜日の午後に研修会を開いておりますので、そういったところの研修で学校の先生方を集めて、フィールドワークとして歩きながら実際に見るとか、将来的には現地で体験活動などもできれば子どもたちにも良いのかなと思っています。あとはモデル授業みたいなものを、船橋の社会科研究委員会、或いは小学校3・4年生の副読本「わたしたちの船橋」作成委員会もありますので、もし載せられるのであればそういったところでも紹介して、認知度を高めながら、実際にどの分野、どの単元の授業で扱えるのかというモデルケースを作って、その指導案を市の

方に広めていければ少し良いのではと思っております。

阿部委員長：いくつか、今後の方向性を探る上で非常に重要なご意見をいただきました。事務局で、今日の委員の先生方のご意見をまとめて、素案を作っただけだと思います。

(5) 議題 (3) 今後の予定について

事務局から説明後、質疑及び意見交換を行った。

(現状と課題の提示について)

秋山委員：第二回目で、現状と課題について現地視察をされるとおっしゃったのですけれども、できれば、いわゆる考古学的な研究における現状と課題は何か、それから整備をしていく上ではどういう現状と課題があるのか、それから活用についてはどういう現状と課題があるのかということ、難しく考えないで、現時点でどうお考えなのかという、そういう三つの軸くらいのことは現状と課題として捉えていただいた方が良いのではないかと思います。

(周辺の文化財・遺跡について)

阿部委員長：秋山委員の今のご意見と関連するのですけれども、今日は一回目ということで、取掛西貝塚のこれまでの成果の概要についてまとめていただきましたけれども、活用を考える場合に周辺の文化財、遺跡との関係というものはじめにきちんと関係付けておかないと、後付けでは少し難しいところがありますので、次回にはぜひ市内を中心とした取掛西貝塚の時代、或いは縄文時代全体の文化財にどういうものがあるのか、活用の方向性としてどういうものが考えられるのかというところを、少し詰めて議論できればと思います。

(周辺計画について)

押田委員：対象区域は市街化調整区域でして、将来を考えたときにこの周辺の開発などに関わるようなものがあるのかどうかを、市内部の他の部署とも調整して、周辺計画についてもお示しただけたらと思います。特にこの周辺は県道や国が設定する道路などもありますので、恐らく市だけの調整ではままならないものも、かなりあると思います。ですから、整備も踏まえた時に、そういった必要な諸条件というものを出していただけると助かります。

(6) 議題 (4) その他 (アンケートの実施について)

(学校へのアンケート実施)

阿部委員長：議論のなかでは、まず初めに学校の先生方に理解をしていただく必要もあるというご意見もいただきましたけれども、船橋市内の小中高校の先生方に、初めにアンケート調査してみたいかがですか。一般市民の方へのアンケート調査は、当然それと内容を変えて、より多くの方々にアンケート調査してみるのが良いと思います。まずは学校教育に関わりを持たれている方々が、取掛西貝塚に対してどういう希望をお持ちであるのかというところを、私たちが聞いてみたいと思います。

今井委員：学校としては、やはり実際に現地へ子どもたちを連れて行って、実物の資料を見せたいというのがありますし、先ほど言ったような体験も、火起こしとかそういったものもできれば良いかなと思いますし、実際にその場に立ってみると、当時住んでいた人たちが見降ろした景色とか、そういうものが体感できるのではと思うのですね。やっぱり現地に行きた

い。しかし、現地に行くためには環境的に整備されていないと、ちょっと子供たちは連れて行けないのかなというところで、飛ノ台貝塚の整備のようにできるかどうかはちょっとわからないのですけれども、そういう環境を整えていただくことができるのであれば、現地で子どもたちに色々な体験を含めて勉強させたいと思います。

(地権者と周辺住民へのアンケート実施)

米田委員： 今後の活用に向けて、遺跡の周辺にお住まいの方が、現時点で遺跡に対してどのように思われているのか、或いはこの計画に対して、どういうご意見をお持ちの方がいるのかということについて、我々が理解したうえで議論ができれば良いと感じた次第です。アンケート調査をする際にはぜひ、併せて遺跡に関する情報も提供して、遺跡の理解・周知を含めて実施していただければ、より効果的に広まるのではと思います。

阿部委員長： アンケートの内容を変えて、地権者の方や遺跡周辺にお住まいの方々に、将来の活用の構想について、アンケートでお聞きしてみるというのも、一つの手法だと思います。ぜひ、アンケートの対象を変えて、多様なかたちで市民の方々のご意見を吸い上げることができるよう、工夫してください。

(アンケート結果の分析について)

秋山委員： 今回のアンケートについてですが、いちばん大事なことは、やはり「知らない」と回答した人が大多数であるということ、これはもう少し分析が必要だと思います。これは史跡そのものが持っている性格だと思うのですが、やはり縄文時代の遺跡は、皆さん「ある」ということは知っているのだけれども、それ以上の興味を持たない。いわゆる非常にオタッキーな世界であるという見方が全国的にされていると思います。例えばお城となると、皆さんすごく興味持って見るのですけれども。埋蔵文化財の弱いところは、その辺りがどうしてもオタッキーな世界だと思われてしまうので、それをどうやって、そうでないものにしていくか。つまり、「知らない」ということが、どういうことなのか。おそらく千葉はベッドタウン化しているので、新しい住民の方が多いと思います。そういうところでは、住民の方になかなか遺跡というものが結びつかないですね。それは、どこの遺跡でも同じです。ですからその辺りもかなり勘定に入れて、地元へ遺跡がどういう風に根付くのかという点は、単に興味本位、或いは専門的な歴史が好きとか、そういうものではなくて、どういう風につながっていくのかということを探求していかないと、最終的な活用に繋がっていかないのではないかと考えております。

朝倉委員： 先ほどのアンケート結果の分析のなかで、できれば知りたいなというのが、年代に関しての認知度というのは出ていたのですけれども、地域に関してどのような違いがあるかというのは、お分かりでしょうか。

事務局： 現時点では、ちょっと確認が取れていないのですけれども、アンケートの元データにあたってみれば、地域別の結果も確認できるかもしれません。

朝倉委員： わかりました。やはりちょっと、地域差で密度の違いというものがあるのではないかという気がしてまして、どの地域の認知度が高く、どの地域が低いのか。例えば同じような史跡や文化財を持つ地域の方が、比較的認知度が高いのか。その辺りがわかると、この先の話も出てくるのかなという気がします。

米田委員：我々が専門家として議論して、専門家としてはこれが一番望ましい姿だといっても、それは市民の方が欲しているものとは恐らくギャップがあると思います。遺跡のこういった側面が、なにが一般の方に訴求するのか。そういう点は知りたいと思います。

事務局：事務局で工夫をして、一般の方のご意見を聞く機会を作りたいと思います。

(次回委員会への意見)

阿部委員長：事務局から初めに取掛西貝塚の学問的な、学術的な評価についての、本当にざっくりとした評価をいただきましたけれども、こういった委員会というのは、委員の先生方も興味を深めていただくことで新しい発想や方法が浮かんできますので、これまでに取掛西貝塚で何がわかったのか、まだわかっていないことは何かなどを、もう少し委員の先生方で共有していただくと、意見を活発に交わせるのではと思います。次回の会議ではその点にも少し時間を取っていただいて、取掛西貝塚から何がわかって何がわからないのかということ、少し学問的な話もなるべく噛み砕く形にして説明する機会を少し設けていただけたらと思います。

阿部委員長：他の委員の先生方はよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

阿部委員長：それでは、最後に事務局から何か連絡事項があればお願いします。

事務局：先ほどもお伝えしましたとおり、次回の会議については、あらためて連絡させていただきます。以上でございます。

阿部委員長：ありがとうございました。委員の先生方からたくさんのご意見、宿題をいただきました。次回の会議では今日のご意見をまとめて、議論の口火を切りたいと思います。それでは、以上をもちまして第1回 史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会会議を閉会いたします。ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

9. 問い合わせ先

船橋市教育委員会 生涯学習部文化課 文化財保護係
047-436-2887